



同志社女子大学 教職課程センターだより

第 21 号

2020 年 4 月 30 日発行
同志社女子大学教務部教職課程センター
〒610-0395 京都府京田辺市興戸
TEL 0774-65-8488
FAX 0774-65-8418
e-mail: menkyo-t@dwc.doshisha.ac.jp

INDEX

「適切な時期」に「適切な人」と 特集 ～教育実習を目前に控えた学生のみなさんへ～	谷 直之 1
子どもから学んだ2つのこと	竹井 史 2
あいまいさの中にあるアイデンティティ	橋本 秀実 2
教師への道	
教採を受験する皆さんへ	浅田 彩音 3
講師として歩んだこの1年と教採対策	市川 陽菜 3

現場からエールを	今井 咲月 4
教採合格体験記	宮川 遥 5
大阪府特別支援学校の採用試験について	村川 歩里 5
教員採用試験に向けて	奥村友香子 6
コラム	
自分の進む道	嶋田 邦樹 7
キャリア支援部よりお知らせ	8
教職課程センター、免許・資格課よりお知らせ	8



「適切な時期」に「適切な人」と

教務部長

谷 直 之

ここ数年、ホモ・サピエンスに関する書籍や番組をよく目にします。それらの多くの概要をご紹介しますと、今の私たちの祖先であるホモ・サピエンスは、他の人類より強かったからではなく、むしろ弱かったからこそ絶滅をまぬがれた、のだそうです。つまり、森林から平原へと追いやられた祖先が、そこで弱者として生きる柔軟性・適応力を手に入れた、そしてちょうどそのタイミングで、たまたま環境に大きな変化が起こり、森林の減少が起こり、それによって他の人類が絶滅するなか、敵がいなくなった私たちの祖先だけが生き残ることができた、ということのようです。

私自身の人生を振り返ってみると、不思議と、たまたま「適切な時期」に、たまたま「適切な人」との出会いがあったように感じます。大学時代の恩師との出会いは、今の私にとっての最も大きな出会いです。恩師に出会えなければ、恩師の講義に出会えなければ、間違いなく、研究の道に進もうとは思わなかったでしょうし、教育者であろうとも思わなかったでしょう。同様に、大学・大学院時代に出会えて、教えをいただいた多くの先生方にも、心から感謝しています。また同時に、小学校・中学校・高校と振り返ってみたとき、あの時この先生と出会えていなかったら、あの時あの言葉をもらえていなかったら、きっと今の自分はなかっただろうと思いたることが多いことに気づかされます。天の配剤、あるいは、キリスト教主義を掲げる本学においては、主なる神様のお導き、と言った方が良いでしょうか？ 私にとって先生という存在は、それだけ特別だ、とあらためて実感しています。

教職を志しておられる皆さんの中にも、おそらく、そういった先生との出会いがあって、教師になりたいと心を決められた方も多いのではないかと思います。そして私と同じように、振り返ってみると、不思議な力が働いて、「適切な時期」に「適切な人」との出会いがあ

ったと感じられる方もいらっしゃるのではないかと思います。

ところで、ホモ・サピエンスですが、森から追い出された直後であれば、仮に環境変化による森林の減少が起こったとしても、他の人類と同様に、生き残ることはできなかったと考えられています。草原においても弱者であったがゆえに、安全に狩りを行うための道具を発明したり、共同で作業するコミュニケーション能力を発達させたりしつつ、何度も絶滅の危機に瀕しながら、何とか生き抜く力を獲得できた、環境の変化が起こったのがまさにそのタイミングだったからこそ生き残ることができた。私たち人類からすると、「適切な時期」に恵まれた、ということになるかと思われます。しかしその「適切な時期」が訪れたときに生き残ることができるだけの進化＝努力を私たちの祖先が積み重ねてきたからこそ、「適切な時期」が訪れたと言い換えることもできるように思います。

中島みゆきさんの「糸」という歌に、「なぜめぐり逢うのかを 私たちは 何もしらない いつめぐり逢うのかを 私たちは いつもしらない … 逢うべき糸に出逢えることを 人は 仕合せと呼びます」という歌詞があります。まさに私は、「逢うべき時期」に「逢うべき先生たち」と出逢うことができて、本当に仕合せだったと実感しています。

教職を目指されている皆さん。皆さんがこれから出逢う生徒たちにとって「適切な時期」がいつ来るのかは、私たちにはわかりませんし、ちゃんと「適切な時期」に皆さんと出逢えるかどうかはわかりません。ただそれがいつであったとしても、生徒たちの「適切な人」になれるように、しっかりと準備をしておいてくれることを望みます。

さて、私自身は、大学で出逢った数多くの学生たちにとって、「適切な先生」となることが出来ているのでしょうか…？



特

集

～教育実習を目前に控えた学生のみなさんへ～



子どもから学んだ2つのこと

現代社会学部現代こども学科 教授 竹井 史

私は、これまでに小学校の教育実習生、小学校教員（産休補助）、某教育大学附属小学校長と3つの立場を経験してきました。教育実習に向かわれる皆さんにいくらかの経験談をお話したいと思います。参考にできれば幸いです。

まず、一つ目は「子どもに絶対ウソをつかない」ことの大切さです。大学時代の教育実習で小学校2年に配属されました。その中に学校終りに小6のお兄ちゃんと親のスイカ売りを手伝っている女の子がいました。「お兄ちゃんとスイカ売ってるの」「ほんと、実習終わったら見に行くよ」「場所は・・・待ってるね」「了解」多分、そんな会話をしたと思います。当日、実習の打ち合わせが長引いてしまい、疲れもあって結局、行かずじまいになってしまいました。次の日、その子から「どうして来てくれなかったの、お兄ちゃんと『絶対、来てくれる』『来ないよ』…と夕方までケンカした」と聞かされました。何を言い訳してもその子にとって、ウソはウソ。数十年経った今も、どうしてあの時、行かなかったのか、反省は止まず、今も大きな心の傷となっています。

二つ目は、子どものものの見方、考え方や価値観によりそいながら関わることの大切さについてです。小学校2年生の産休補助教員をしていた5月の月曜日、クラスの子どもが、海で採ってきたというカニをみんなに見せに持ってきました。クラスみんなは大喜び。口々に「飼いたい！飼いたい！！」という話になり、クラスの友達として迎えることになりました。問題は、海に住んでいる生き物をどうしたら教室で飼えるかということです。不可能だとは予想しつつ、水道水に塩を入れ、疑似海水を作ることに話はまとまりました。しばらく元気だったカニも子どもの入れる給食のごはんやおかずと気温の温かさによって弱り、とうとうそのうちの1匹が死んでしまいました。「先生！カニさん死んじゃった！どうしよう？」「みんなでお墓作ったげようか」「うん、そうしよう、そうする」と校庭の片隅に穴を掘り、[かにさんのおはか]という札も立てることになりました。そうこうしてるうちに、また1匹、また1匹と死んでいき、クラスみんなで悲しい気持ちになりながら、お墓を作っていきました。ある日、また1匹死んだカニを見せられ、「どうしよう？」相談を受けました。その時は、忙しくて職員会議も控え、気もそぞろで、思わず「わら半紙に包んでゴミ箱に捨てて」と言ってしまうしました。後日、自由作文の時間に、その女の子が「先生はひどい。あの時、先生はカニのお墓を作ってあげてと言ってくれると思ったのに、カニをゴミ箱に捨てなさいといった。先生はひどい。。」こんな内容から始まる作文を原稿用紙3枚半書き、渡されました。あの時、どうして「みんなでカニのお墓を作ってあげようか」と言えなかったのか、悔いが残りました。またまた反省は止まず、今でも大きな2つ目の心の傷となっています。人はどの発達ステージにおいても等価であり、子どもといえどももの真実を突く鋭い眼を持っていると大いに学ばされました。

こんな心の傷を隠しながら、今も実習生の指導を偉そうにしているわけですが、元校長経験者としての立場から、これから実習に行かれる皆さんにどうしても言っておかなくてはならないことがあります。それは「あいさつ」と「お礼」の大切さです。学校は、好意で実習を受け入れてくれていますので、皆さんはお客さんではありません。何よりも感謝の気持ちを持って、学

校にいる関係者の皆さんに笑顔であいさつをしてほしいと思います。そして、先生方から子どもたちから親切にされたときも感謝の気持ちをもってお礼を言い、次の日も「昨日はありがとうございました」と言えるよう習慣づけてほしいと思います。習慣は繰り返すことで教養となり、何より皆さん自身の生涯を助ける大きな力になります。

あいまいさの中にあるアイデンティティ

看護学部看護学科 准教授 橋本 秀実

養護教諭を目指して実習に向かう皆さん、皆さんはなぜ養護教諭を志したのでしょうか。みなさんが描く養護教諭像とはどんなものなのでしょう？

先生と呼ばれる存在ではあるけれど、受け持ちの児童・生徒がいるわけではない。保健室でけがや病気の手当てはするけれど、看護師ではない（看護師の免許を持ってはいても看護師として働くわけではないという意味です）。健康に生きていくための教育はするけれど、成績をつけるわけではない。「養護をつかさどる」と法律には決められていても、その職務は多岐にわたり、また、地域や学校の実態によっても、児童・生徒によっても、あるいは、養護教諭自身の考えや経験、能力によっても、果たす役割は実に多様で、だからこそ、小・中・高等学校を通して皆さんが出会った養護教諭の姿はさまざまだったのではないのでしょうか。

私はそのあいまいさの中にこそ、養護教諭のアイデンティティがあるのではないかと考えています。保健室に来る児童・生徒は一時的にせよ、中長期的にせよ、身体や心に何らかの問題を抱えてくることが多いです。その子どもに対して、ある時は医療者的にアセスメントしケアする、ある時は教員として指導し、あるいは母親のように接する。そんなあいまいさ、柔軟さが養護教諭の魅力ではないかと思うのです。

養護実習にあたって、ぜひ皆さんそれぞれの養護教諭像をイメージしてみてください。そのイメージは、ほとんどが皆さんの経験に基づくものだと思います。そして、それは、皆さんが子どもだった、つまり、学校の中で守られ、育まれる存在だった立場からのイメージだと思います。その上で、看護学、教育学、学校保健などの大学での学びを踏まえて自分の理想とする養護教諭像を描き実習に臨みましょう。そして、その姿を実際に実習校の養護教諭に重ね合わせ、実習をする自分自身の姿に重ね合わせてみてください。実習が終わる頃には、教育者、養護者としての立場からの養護教諭像を描ける



集団討論演習 1

ようになるはずですが。その姿があらかじめ描いていた養護教諭像と同じなのか、違うのか、違うとすればどこがどのように違うのか、そしてそれはなぜなのか、ぜひ考えてみてほしいと思います。

あいまいさは、養護教諭自身の個性や教育観によっても、学校によっても、あるいは来室する児童・生徒によっても違う、ということです。裏を返せば、臨機応変に、柔軟に対応する力が求められるということでもあります。そのあいまいさを良い意味で発揮できるようになることが養護教諭として熟練の域に達するということなのかもしれません。

振り返れば、新任の養護教諭として赴任した時、22歳の私は、やんちゃ

な中学生になめられないように、保健室をたまり場にされないように厳しく接する一方でした。そして、平等に接することが大切と杓子定規に、ほかの子どもにも同じように厳しく対応して悲しい思いをさせていたのではないかと思います。数年たって心にゆとりができ、そのことに気がついたとき、多岐にわたる養護教諭の役割が少し理解できたように思います。

養護教諭を志している皆さんにとって、実習は間違いなく楽しいはずですが。今はあいまいさを十分に発揮できなくても、心から子どもに向き合って自分自身の養護教諭像を描いてみましょう。理想とする養護教諭を目指してまずは第一歩！エールを送ります。

教師への道



教採を受験する皆さんへ

横浜市・公立小学校 浅田 彩音
(2018年度卒業)

わたしは今、同志社小学校で5年生の副担任をしています。基本的な業務は、授業中の子どもの補助で、教育サポーターという仕事です。

公立の小学校で講師をするという選択もありましたが、一度くらい私立の小学校で働いてみるのもありかなあという軽い気持ちで、同志社小学校で働かせて頂くことにしました。

結論から言うと同志社小学校で働くという経験が出来て良かったなあと思います。それは、すごい先生の授業を毎日見ることができ、知らない世界をたくさん知れたからです。

もちろん第一は子どもの成長の為にサポートですが、素晴らしい先生の授業に入り込めるのは本当に勉強になりますし、特にキリスト教主義に基づいた色々な行事は私にとってすごく新鮮なもので、今まで知らなかった知識や経験を得ることが出来ます。授業中のキラキラした子どもの顔を見ると、はやく私も授業をしたい！という意欲が湧いてきますし、私は学生の頃よりも勉強をしている気がします。

なぜこんなことを書いたかという、教採に落ちたからこそ、私はこんな経験ができたということが言いたかったからです。私が大学生の皆さんにお伝えできることは、教採にたとえ落ちても、落ちたからこそ選べる道もあるよ、ということです。

私は一年前、まさか横浜市に行くことになるなんて思ってもいませんでした。横浜市を受験し、行くことに決めた理由は、この一年を経てもいいから先生になりたい！という気持ちが強くなったからです。これは結果論

になってしましますが、何がどう転ぶかは、誰にも分かりません。もし教採をなんとなく受けようとしている人がいるなら、自分にピンとくる進路を探してみるのも良いんじゃないかと思います。どんな経験でも活かすことができるのが教師という仕事の魅力だと私は信じてます。

現役で教採あかんくても、こんな進路もあるんや、ふーん。という軽い気持ちで読んでもらえたら幸いです。ステキな先生になれるように、私も頑張ります。皆さんも頑張ってください。

講師として歩んだこの1年と教採対策

滋賀県・公立中学校 音楽科 市川 陽菜
(2018年度卒業)

私は、同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻を昨年度卒業し、現在滋賀県の中学校で市費講師として勤務しています。

大学4回生の時、初めて受けた教員採用試験に落ちました。就職活動はせず試験勉強のみをやっていたので、不合格の結果が分かった時の進路希望は、講師として経験を積みもう一度採用試験を受けることでした。不安は大きかったのですが講師登録をし、連絡を待つことしかしていませんでした。

12月末頃、中学校から電話連絡が来ました。その中学校が現在勤務している学校です。

今年度、2度目の教員採用試験を受け、合格しました。私が、講師として働きながら諦めずに採用試験を受けることができたのは、同じ学校に勤務する先生方の温かい支えと、現場で実際に働くことで教育という仕事の責任の重さを感じると共に、責任の重さと同じくらいのやりがい強く実感したことだと思っています。

今年度4月から勤務している今の学校の生徒数は、県内では多い方で1学年7クラスあります。私は担任は持たず、1年生の音楽の授業と吹奏楽部の副顧問を担当しています。学校の様子は、落ち着いているとは言えない雰囲気、日々様々な行動を起こす生徒に驚かされています。平日は、自分の授業以外の時間はほとんど廊下をパトロールし、授業をエスケープする生徒の指導をします。授業準備などができるのは生徒が部活を終えて帰ってからのので、勤務したての頃は仕事を終えてから採用試験の勉強をする体力は残っておらず、試験対策は何も出来ていない状態でした。そんな中、試験対策に取り組んでくれたのは、周りの先生方の温かい支えのおかげだったと心から思います。「授業の合間みて試験勉強していいんやで」「授業準備ほどほどにして早く帰りや」など、普段から優しく声をかけて下さいました。ま



個人面接演習 1

た、教頭先生は「仕事の帰りにカフェに寄って勉強したら効率良いよ」と、経験談を話して下さり、それを私も実行することにしました。仕事に少し慣れてきた5月中旬頃からは、授業準備を土日にとまとめて終わらせ、平日はできるだけ早く学校を出て帰りにカフェに寄り、夜10時頃まで勉強する生活を送りました。眠くて帰りの車を運転できず、車を停めて仮眠をとったりすることもありその生活が体力的にも精神的にも辛く、今すぐにでも全部辞めたいと思うこともありました。それでも採用試験を受けようと思えたのは、尊敬する職場の先生方とこれから仕事をしたいという気持ちと、自分の指導が生徒の成長に繋がったことを実感した時の感動とやりがいが大きかったからです。人として尊敬できる先生方から学ぶことはたくさんあり、自分もさらに成長し教師としての力を付けたいと思えました。難しい生徒に悩まされることは多いですが、その分生徒の成長や心の繋がりを感じた時の感動は心に響きます。辛いことが多い分嬉しいことがその倍以上に感じ、人と関わる仕事の良さを改めて深く感じました。

私は、採用試験に受かる前に講師経験ができて良かったと本当に思います。講師経験が採用試験に活かされたと感じることはたくさんあります。まず、人前で自然に話すことに慣れました。そのおかげで、面接では話したい事を分かりやすく自然に話すことができたと思います。また、講師経験から、生徒指導の面などで日々深く考えさせられることと関連することを面接で聞かれたので、自分の素直な気持ちで話せたため言葉に重みが出たのではないかと感じます。人物重視といわれている滋賀県の採用試験では、面接の印象は合否に大きく影響すると考えられます。昨年度の採用試験の自分を思い出すと、経験がなく考えも浅かったことが伝わっていたような気がします。他にも、校長先生からは、小論文で出そうな今話題となっていることなどが書かれているプリントを頂いたり、色々な先生方がアドバイスを下さったりと助けていただきました。毎日の少しずつの積み重ねが合格に繋がったと感じます。

また、私の学校は、音楽の教師が2人なので、もう1人の先生から授業や部活動のこと、合唱コンクールや成績処理のことなど、全て丁寧に指導して頂きました。授業見学もさせて頂き、とても勉強になりました。

音楽の教師は学校に1人しかいないことが多いため、特に正採用の場合は1年目から自分だけで全てやっていかなければいけなくて大変だという話を聞くことがあります。私は講師という立場であることで1年間同じ教科の先生から学ぶことができました。教材研究の参考になる資料や本などもたくさん貸していただいたりと、まるで教育実習生かのように教えていただき、講師でこの学校に勤務できて本当に良かったと思いました。心から尊敬できる先生と関わることで自分自身の成長にも繋がることを強く感じました。

教員採用試験対策として他にしていたことは、勤務校以外でも情報を集めたいと思い、同志社女子大学にもお世話になりました。面接練習や集団討論

練習は自分1人ではできないと思い、大学3、4回生の時にお世話になった先生に連絡を取らせていただき、教採対策の授業に何度か出席させて頂きました。大学生との面接練習、集団討論練習は学生ならではのエネルギーを感じ、内容も含めとても刺激になりました。勤務校では得られない情報などを大学で知ることもできて、大学での対策は的確であり、1人でも授業に飛び入り参加して良かったと思いました。

また、筆記試験対策の内容は、大学4回生の時に勉強したことを復習していました。採用試験の内容や傾向は大きく変わることはあまりありません。私が、勉強時間が少なくても試験に間に合った理由は大学4回生の時からの積み重ねがあったからです。

私は、1年間の講師経験のおかげで、教員採用試験に受かることができたのだと思います。もちろん採用試験で残念な結果が出ることなく教師になれば1番の近道なのだと思いますが、そうでないからこそ学べることはたくさんあります。また、去年から今年にかけて共通することは、周りの人に助けられてきたことです。大学4回生の頃は、友達と情報交換をしたり、一緒に勉強して教えあったりすることで、自分だけでは気付けなかった事に気付くことがたくさんありました。今年は、職場の先生方から様々なことを教えて頂きました。周りの人に恵まれ、成長させてもらったと感じます。4月から、教師として新しい場所でも学び続けることを忘れず頑張ろうと思います。

現場からエールを

大阪市・公立高校 家庭科 今井 咲月
(2018年度卒業)

私は去年、現役合格を逃し、大阪市の高校で家庭科の常勤講師をして7カ月を迎える者です。そして先日、大阪市の教員採用試験に合格しました。そんな私から、これから教師を目指すあなたに向けて少し私の体験についてお話します。

「えっ、タメヤン。いじめんといたるわ。」

4月、自己紹介を終えた私に一人のギャルはそう言い放ちました。教室には他にも芸能人のゆきばよやみちよのようなメイクをしたギャルたちがたくさんいて、こいつ何者やねんといった表情でこちらをみています。17歳と22歳やねんからタメチャウワ！とツッコむ余裕はありませんでした。私は今までギャルに出会ったことがありませんでした。初めての学校、初めての教壇で初めてギャルに出会い、私の心臓は破裂しそうでした。

先生という職業は面白いし、全力でおすすめしたいものです。しかしいざ先生になったとき、配属先の学校は、どんな学校になるか分かりません。ご縁あって、私の配属先はちまたでは有名なギャルの多い学校でした。これから、少しギャルについて解説します。今後、私のような小心者の同志社女子大学の卒業生が配属先の学校でギャルに出会ったときに少しでも役に立ててもらえると嬉しいです。

その1。ギャルは思ったことを何でも大きな声で口にします。うっとうしいと思えばうっとうしいというし、嫌なことがあるときしょいねん死ねといえます。例えば、家庭科の授業中、体操服を枕に寝ているギャルを起こそうとすると「うっとうしいねんお前！！どっかいけや！！！」という具合です。この時、ギャルは「寝る」という行為を邪魔されたことに対してものすごくいら立っています。ですのでくどくどと授業態度うんぬんについて指導するよりも、冷静に今やるべき作業を伝えてください（黒板の板書をうつして、など）。その後もギャルは大声で叫ぶなどして抵抗しますが、2、3回繰り返すとたいてい折れて言ったとおりにしてくれます。

調理実習は面白いです。「食べる」という目的があるのでみんな一生懸命



集団討論演習2

作ります。そして上手くいなくて怒りだします。レシピを見ながら「4 カップってなんやねん!! 意味わからんし!!」という感じです。メイクの濃いギャルが怒るとかなりの迫力があるのですが、計量カップを手を持ちながら猛烈に怒っていて、お笑い芸人が全力でボケているみたいになっていました。その子に「そのカップに4 杯やで。」という「簡単やーん!」とにこにこ顔になってくれました。

その2。ギャルは授業が大嫌いです。大好きなことは、遊ぶことと恋バナに花を咲かせることです。つまり、授業をすると授業崩壊が起こります。大声で彼氏にあげるプレゼントの話を始めたり、立ち歩いて別のギャルの太ももに落書きを始めるといった具合です。そんなギャルの前で「授業してる感」を出してはいけません。あくまで参考ですが、先日、中華料理の授業をクイズ大会形式で行いました。二人一チームになり、新聞紙の上に立って私の出題する中華料理に関する○×クイズに答えるというものです。不正解なら新聞紙を半分に折って、新聞紙から落ちたチームが負け、というルールで行いましたが、みんな大声で「絶対○やー!」などと叫びながら取り組んでくれました。

その3。ギャルの中には母子家庭でお母さんが働きに出ていて、ほとんど家族と会話の機会が取れないという子も多いです。他にもそんなに深入りできていないですが、様々な事情を抱えて生きているようです。だからなのか分かりませんが、たとえ授業中でもものすごく話を聞いてほしがります。急に勢いよく彼氏の話を始めたりするので「授業終わってからにして!」というのが大変です。またものすごく褒めて欲しがります。ちょっと玉結びがきれいにできると「先生!! すごない! ?」と見せてくれます。

私にとってそうやって話しかけてくれることはとても嬉しく、日々元気をもらうことができます。みんなかわいくて好きな生徒ばかりです。

また採用試験についてですが、私がやったことは、共同出版の全国版の家庭科の問題集を解説も含めノートにまとめたことです。講師をしながらだど何冊も問題集をやる時間はありません。それで本番の筆記試験では7 割取れました。今年は消費税の軽減税率に関する問題も出題されており、話題のニュースもチェックしておくといいと思います。面接は校長先生はじめ、配属先の学校の先生方をお願いして練習してもらいました。去年、試験を受けた先生や同じ教科の先生に、どんな質問が来たか聞いておくのと良いです。また、校長先生は教育委員会とつながっており、面接試験での質問事項を知っているのだからたくさん話を聞いておくべきです。

最後に、この文章を読んでくれて教師になるのに不安を覚えた人もいるかもしれないですが、私は講師になっていろんな人に会えて、本当に面白い日々を送っています。また困ったときは学校の先生方が助けてくれるので、心配しないで大丈夫です。かなり偉そうに体験談を語ってしまいましたが、私は文章の初めに述べた通りの小心者で、日々周りの人々に助けてもらって、どうにかやっている状況です。あなたの味方はたくさんいます。もちろん私も味方です。大阪市のことについての質問なら教職課程センターの方を通じてお答えできると思うので何かあったらいつでも聞いてください。現場からエールを送っています。

教採合格体験記

京都府・高等学校 国語科 宮川 遥
(2017 年度卒業、2019 年度連合教職大学院修了)

私は連合教職大学院 1 回生の時に受けた 2 度目の採用試験で、京都府の高等学校教員採用試験に合格しました。私が受験した自治体は京都府ですが、私の経験がこれから教員採用試験を受ける皆さんにとって少しでも役に立つのであれば幸いです。



場面指導演習 1

筆記試験対策は3 年次の秋から友人とともに始めました。一般教養・教職教養・専門教養は、過去問を中心に時間を測って解くようにし、間違えた問題をコピーして A 4 サイズのノートに貼り付けて間違い直しノートを作り定期的に見直しました。すると、本番の時間配分を考えるうえで参考になるだけでなく、過去問と類似した問題が出題されたときの得点源にも繋がります。その他にも、空いた時間で自分の専門に関する書籍を読み、読書ノートを作りました。

小論文は、京都府の場合、字数制限がありません。私は約 800~1200 字で書き終わるように練習をし、問題文で一番強く問われているところに線を引き、4 段落構成で時間配分を考えながら書き、教職の先生に添削をお願いしてご助言をいただきました。このように自分の書く「型」を作って慣れておくと、本番は落ち着いて挑めると思います。

苦労したのは面接対策と模擬授業です。これらに関しては、教職を目指す友人や教職の先生方の協力が不可欠でした。面接対策は、先生の指導のもと、自分の体験を教育と関連付け、論理的に言えるように何度も練習しました。模擬授業は、同じ教科の友人を始め、他教科・他校種の友人にも見てもらいました。特に他校種の友人らは、「漢字の書き順、それで合ってる?」や「古今和歌集は現代でいうところの何なの?」等の率直な質問を投げかけてくれたので、授業を改善するうえでとても助かりました。

最後に、私が教員採用試験で一番大切だと考えているのは、自己理解がどれだけできているかです。面接官が見ているのは、「その人が教育について何を大切にしているか」です。内容が立派である必要はありません。自分が教育について、今何を思っているかを面接官に伝えることが、教師という職業における自分のテーマになります。最後までベストを尽くしてください。

大阪府特別支援学校の採用試験について

大阪府・公立特別支援学校中学部 国語科 村川 歩里
(2018 年度卒業)

私は同志社女子大学を卒業後、京都教育大学特別支援教育特別専攻科で学んでいます。今年大阪府特別支援学校中学部国語科で採用通知を得、春から教員として勤務することになりました。今回は教育大での学びと採用試験の対策について、いくつかお話をさせていただきます。

まず筆記試験について。一次試験の教育法規などは、教育課程の直前問題集を解く程度で、大きく時間はとりませんでした。しかし一般教養に関しては内容が SPI 試験に近く苦手意識があったので、こちらを重点的に取り組みました。ここ数年の傾向を考え、過去問や教採関連の問題集を解くよりも SPI 試験の問題集を解く方が効率はいいと考え、SPI 対策の問題集を使って勉強をしました。

一次試験後、結果を待たずに二次試験の面接練習を始めました。昨年度は

面接練習が足りず二次で不合格になったため、今年は二次試験まで三週間、空きコマのほぼ全部を使って面接練習を行いました。京都教育大学にもキャリア課があり、教採対策の面接練習やセミナーなど環境は十分に整っているのですが、それらは利用しませんでした。

私の在籍する専攻科の学生の八割は、近畿圏の学校で勤務されておられる現職の先生方です。教育委員会の長期研修として来ておられるため、特別支援教育に関心があるか実際に携わってこられた方ばかりでした。私は受験が特支ということもあり、特支の現場を知っておられる方に受け答えを見てもらう方がよいと思い、キャリア課ではなく専攻科の先生方に面接官役をお願いしました。結果、十名以上の現職の先生方が協力してくださり、多くの現職の先生方の意見を得ながら場数を踏むことができ、二次試験は緊張することなく自然体で受験することができました。

三次試験は筆記と面接、模擬授業がありました。筆記試験は国語科の内容に加えて特別支援教育の専門知識の内容があります。国語に関しては古典と漢文の文法を復習し、特別支援教育については今まさに勉強をしている内容ばかりだったため、大学の授業にはなかった障害者に関連する法律や制度を中心に勉強しました。

模擬授業の内容は一切国語と関連がなく、知的障害の中学生への職業・家庭について四分間授業をするという課題でした。問題は指導要領から抜粋する形で出題されるため、よく言えば自由性が高く、悪く言えば具体性はありません。さらにここで課題となったのが、私が知的障害のある中学生と全く接したことがないという点でした。教材も生徒像も一切の指定がないため、知的障害のある児童に接した経験がないと、指導内容が難しすぎたり易しすぎたり、全く見当違いの授業を構成してしまいかねません。

そこで特別支援学校に勤務されておられる専攻科の先生方に相談し、まず詳しい生徒像を考えました。人数、ダウン症や自閉症などの障害種、生徒個々の得手不得手、発達段階はどの程度かなどの詳細です。次に中学部三年間を通しての職業の授業の学習目標や指導内容、流れをざっくりと決め、課題に一番合う学年を選んで、一学期に十時間配当があるという設定で授業計画を作りました。最終的にその授業計画の中から一時間分を選び、そこから四分間を抜粋する形で授業を行いました。

実際に模擬授業をするのは考えた十時間の内たった四分で、生徒像はすべて架空のものです。たかが四分のためにそこまでする必要があるのかと思われるかもしれませんが、一度やってみると模擬授業の空気が全く変わることになりました。

模擬授業後の面接で何を聞かれてもいように、徹底的に設定を作り、それがわかってもらえるような四分間になるように指導の流れも考えました。「校外学習の時にみんなでご飯食べに行ったよね」などの声かけから授業の背景の流れを見せ、障害に合わせた声掛けや板書づくりなど、生徒像やこの後の授業の流れが想定できているため、本当に教室で授業をするように自然体で取り組むことができました。結果、面接ではほぼ模擬授業の内容につい

て聞かれることはなかったのですが、やりきったという安心感から面接にも落ち着いて取り組むことができました。

ここからは今後受験をされる方へのアドバイスです。すべて個人的意見です。

まず第一点に、私は同女在学時に同じ大阪府の特支中の国語を不合格になり、教育大へ進みました。一度不合格を受けた立場から言えるのは、「不合格になっても案外だいじょうぶ」ということです。

二度目の受験はある程度勝手もわかっていますし、しっかり準備ができて一度目の受験よりもずっと落ち着いて試験に取り組めたように思います。最初の試験からそれができれば言うことはないですが、できない人が大半です。現役合格がもちろん一番いいのですが、不合格を過度に恐れることはありません。春には新たな学びや出会いがあり、採用試験は毎夏訪れます。不合格になった時の心配はいりません。案外どうにでもなります。追い詰められることなく、今できることに精一杯取り組んでください。

第二点に、面接は回答を準備するより、自分の信念をきちんと確立させて臨んでください。三次試験、私は想定外の質問ばかりをされ、スムーズな応答には程遠いものでした。しかし自分の中に「こんなことを教えたい」「だから教員になりたい」という気持ちがあり、そこに基づいて回答ができたので、結果として等身大の自分で面接官の方とお話ができたとと思います。必死で回答を準備するより、どんな教員になりたいか、何故なりたいのか、それらを自分の軸としてしっかり持つことがなによりも重要であると思います。

長文になりました。末筆ではありますが、同志社女子大学の皆さんが教員として自身の夢を叶えられますよう、お祈りしております。

教員採用試験に向けて

島根県・公立中学校 英語科 奥村友香子
(2019年度卒業)

昨年の9月末に島根県の教員採用試験に合格をし、2020年度から中学英語教員として現場で働かせていただくことになりました。今回は、これから教員採用試験を迎える皆さんに向けて、私自身が受験にあたり取り組んだことを二点お伝えしようと思います。

一つ目は反復学習です。教職教養の勉強に関しては初めて学ぶ知識が多く、先が見えない状況に何度もくじけそうになるかもしれません。大事なのは、一つの参考書と受験する自治体の過去問を繰り返し解いていくことです。知らないことがほとんどで、とにかくたくさんの知識を覚えなければと焦る気持ちがあるかもしれませんが、すべての知識を網羅することは難しいことです。様々な問題集や予想問題を解くよりも、一つの参考書で知識を確かな物にする。そして過去問から分かる試験傾向に沿って学習を進めていくことが大切です。

次に自己分析。これは就職活動だけではなく、採用試験においても重要です。ほかの受験者と自分の違う点、強みになる点をじっくり考えることで、面接や小論文の内容をしっかりしたものになります。英語科であれば、海外留学をした経験は強みとしていかせると思います。しかし近年、留学経験者の数は増加しています。そこで、留学先でどのような目標をもって、それに対しどのように考えて過ごしたのかなどをまとめておくと思えます。留学以外の点でも強みを考えておくことも忘れないでください。

採用試験に向けての期間は、常に不安と焦りとの戦いでした。それでも、センターの先生方や一緒に受験に向けて頑張る同志たちの支えがあったからこそ乗り切ることができたと感じています。皆さんも一人ではありません。たくさん周りに頼ってください。皆さんの夢が叶うことを島根県から願っています！



場面指導演習 2

コラム

自分の進む道

国際部参与（元教務部次長） 嶋田邦樹

連続テレビ小説「スカーレット」は年度末で終了しましたね。見ていた人もおられるかと思います。自らの陶芸家人生を、困難に負けず紆余曲折を経て切り開いて行き女性初の陶芸家と言われるようになった方の実話をもとにした物語でした。これを見ている内にこの主人公が教職を目指して頑張っている皆さんの姿と重なって見えてきました。

主人公は陶芸家として大成した女性ですが最初から陶芸家を目指していた訳ではありません。最初は絵を描くことが好きで絵に対する憧れを持っていただけの少女でしたが、家が貧しくて絵どころではなく、女中さんとして奉公に出されて苦勞します。長い年月が経ってようやく貯まったお金で美術学校に行けるかと思ったら父親のトラブルで貯めたお金は家への仕送りで消えてしまいます。どうしようもなくなって実家の信楽に帰った主人公は、焼き物に絵をかく絵付けという仕事に出会いますが収入はほとんどありません。回りの人々は他の仕事を勧めますが、絵付けを「やりたい!」という強い意志で続けます。その後、陶芸という仕事に出会い「やりたい」ことが変化します。最初は無収入の弟子入りから始まります。女性は仕事を持たずにお嫁さんになることが世の中の常識だった時代に、明日の食べ物にも困っている家の子が陶芸家を目指すというのは、今で例えれば何になるのでしょうか。絶対に「他の国の大統領になる」くらいのことでしょうか。

教員を目指している皆さんと重ね合わせてしまったのは、この主人公はそれぞれの過程ですごい不安な気持ちと戦い続けていたからです。周囲の反対を押し切ってまで今やっていることを続けていいのだろうか。このまま続けても成功するかどうかは分からない。教職を目指している皆さんにもそれぞれの不安があるに違いないと思ったからです。

皆さんはどんな気持ちで日々教職という道と向き合っていますか。いくら自分で目指そうと決めた道でも、不安で立ち止まってしまうこともあるのではないのでしょうか。この道でほんとうにいいのだろうか、他にもっと自分にふさわしい道があるのではないだろうか。合格できるかどうか分からない。合格できないならもっと早く見切りをつけるべきではないか。合格できたとしても、思い描いているような教師生活は送れないかもしれないし教師になったことを後悔するかもしれない。合格を目指して試験勉強をしている日々がたとえ楽しいと感じてもそれが自己目的化してしまっているのではないだろうかなど、不安に襲われることがあるのではないのでしょうか。



何か一つのことを目指すとき不安はつきものです。皆さんはほんの少し前に大学入試を目標にして頑張った経験はあると思いますが、そのときの不安の大部分は合否だったかと思います。回りの多くの人が同じことを目指していたし、自分が大学に適しているか自分の進むべき道は大学かどうかについて深く考えたことはなかったかもしれません。それに比べて今は大きな不安と戦っている人が多いのではないのでしょうか。



スカーレットの主人公が常に不安に打ち勝つことができたのは、「やりたい」という情熱を持ち続けることができたから、「やりたい」という気持ちにいつも立ち返れたからだと思います。教職を目指して頑張っているみなさんも「やりたい」という気持ちを持っているからこそ努力を続けることができるのでしょう。自分の気持ちが困難に打ち勝つことができる程に強いことを確認するために、自分の「やりたい」という気持ちがどこから来たのか考えてみることもあるでしょう。その理由が明確な場合もあるでしょうけれど、明確な言葉で言い表せない場合もあるかもしれません。それでも大丈夫です。理由が漠然としたものであったとしても「やりたい」という気持ちが今ある限り大丈夫です。

大丈夫と言われても不安はあるでしょうけれど、将来のこと先のことまで見通せるなんて誰にもできません。教師になりたいという心の灯が消えていないのならそのような灯を持ち続けている今の自分に正直になればいいと思います。教師になってからでもまた別のことに心の灯がついたらそれを目指すことは可能です。180度違う方向になるか、10度ほど違う方向になるかは別として、その時そのときの気持ちに忠実になればいいのではないのでしょうか。スカーレットの主人公も最初から陶芸家を目指していた訳ではありません。スカーレットの主人公は言います。「どうなるか分からん道を歩き出すのは勇気がある。」「うまく行くかどうかはやってみなわからん。」「苦勞や不幸を楽しみなさい。」不幸を楽しむ? そんなことできる訳がない! でもどのような道に進んでも苦勞や不幸はついてきます。不幸を楽しむという言葉を知っているだけで心が軽くなるときがあるかもしれません。将来はどのような転機が訪れどのように変わるかわかりません。その時そのときの自分の気持ちに忠実に進むべきなのではないのでしょうか。今の「やりたい」という気持ちは初心かもしれません。初心は大事ですが初心に縛られる必要はありません。その時そのときの気持ちに忠実になって努力を続ければ道は開けるものと信じて努力するしかありません。そうすれば少なくとも後悔することは少なくなるのではないのでしょうか。そうすることを「自分の人生を歩む」と言うのでしょうか。





キャリア支援部よりお知らせ

教員を志すみなさんのために、キャリア支援部ではいろいろな支援行事を開催しています。教員採用試験の対策講座や、2、3年次のうちに教育現場を体験するインターンシップを実施しています。授業を通じて知識を習得し、課外活動等を通じて人間性を高めると同時に、これらの行事を積極的に利用して採用試験や教育現場の情報を入手し、合格への道を歩んでください。

～2020年度教職関係行事年間スケジュール～

・セミナー関係・

◎公立学校教員採用試験説明会

(京都府、京都市、大阪市、滋賀県、神戸市、和歌山県等)

対象：4年次生 1～3年次生も受講可／4～5月開催

各教育委員会の採用担当の方から、令和3年度採用試験に関する情報を提供していただきます。

・キャリア・資格取得支援講座・

◎教員採用試験（教職教養）対策講座

対象：1～4年次生／全5回／京田辺

秋学期 10～11月

春学期開講予定だった教員採用試験（教職教養、小学校全科、人物評価試験）については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開講を取り止めることとなりました。

詳細は本学ホームページ『キャリア資格取得支援講座』のページまたは『2020キャリア・資格取得支援講座ガイド』を参照してください。

・インターンシップ・

対象：2年次生以上／夏期休暇中に実施

インターンシップでは事前・事後指導講義に出席することが条件で、条件を満たした実習に対して単位が付与されます。

昨年度は長岡京市の中学校、寝屋川市の小学校に1名ずつ実習生が参加しました。実習内容や参加の感想などを『2019インターンシップレポート』に掲載していますので、ぜひご覧ください。2020年度のインターンシップについては5月に募集説明会を実施する予定です。



教職課程センター、免許・資格課よりお知らせ

《本学ホームページ「在学生の方へ」でもお知らせします》

◎2021年度京都連合教職大学院 特別推薦入学 学内選考について

京都連合教職大学院は、京都教育大学と京都地区の本学を含む7大学と連合方式で設置する、教員養成に特化した専門職大学院（高度専門職業人を育成する大学院）です。学部卒院生と現職教員を対象として、理論と実践を融合させた教育により、実践的指導力の高い教員の養成を行います。

京都連合教職大学院を構成する各大学に対しては、特別推薦入試での推薦枠が設けられています。本学では、特別推薦入試に関する学内選考の説明会を京田辺・今出川両キャンパスで実施します。詳細は本学ホームページでお知らせしますので、確認してください。

◎『教職課程履修カルテ』を記入していますか？

『教職課程履修カルテ』（現代こども学科は「meine karte」）は、教職について各自が学習し体験した内容を記入するもので、「教育実習」や特に「教職実践演習」の授業においてそれまでの学習や体験を振り返りながら活用されます。（文部科学省の指導により2010年度以降入学の教職課程履修者全員に「履修カルテ」の利用が義務付けられています。）

2年次の春学期（音楽学科音楽文化専攻は1年次の春学期、現代こども学科は1年次の秋学期頃）から利用開始です。

◎「教職特別演習Ⅰ・Ⅱ」のお知らせ

教職に就くことを本気で目指す3・4年次生を対象として「教職特別演習Ⅰ（3年次秋学期科目）」「教職特別演習Ⅱ（4年次春学期科目）」を開講しています。ロールプレイやグループ討議などの演習を通して、実践的な教師力を高めることを目標としています。

◎1年次生対象 教職課程説明会

主に1年次生を対象として、毎年、秋学期に「教職課程履修希望者説明会」を実施しています（現代こども学科を除く）。履修の心構えや履修方法、支援体制など、学びの流れを紹介しますので、教職課程の履修に興味がある人はぜひ参加してください。

◎教職課程センター関係の取り組み（2019年度の実績）

教職課程センターでは、教職を目指す学生への支援活動として、センターに入室して様々な教職に関わる相談にお応えすることは勿論のこと、教員採用選考試験対策として下記の取り組みも行っています。

「教職課程研究会 夏期集中講座」

実施期間：2019年8月30日（1日間）に実施しました。

内 容：「教職教養」「一般教養」「面接」の各試験に対する実践指導
参加者：40名

指導者：教職課程センター教員（4名）
（2020年度は8月下旬実施予定です。）

「教職課程研究会 春期集中講座」

実施予定でしたが中止しました。

（2020年度は3月実施予定です。）

「特別講演会」

実施期日：2019年7月3日 15:00～16:30に実施しました。

講師：須崎貫先生（京都市立洛風中学校元校長）

演 題：「「学びの土台」を考える

～世の中捨てたものじゃないが大事～」

参加人数：76名

（2020年度は実施計画中です。）

※教職課程センターは、京田辺キャンパス T552（聡恵館5階）、今出川キャンパス R112a（楽真館1階）にあります。是非活用してください。

重要なお知らせ

皆様にお送りしてきましたセンターだよりですが、本号より、大学のホームページに掲載することとなりました。そこで、皆様にはお願いですが、今後郵送を希望されない場合は、以下のメールアドレスまでお手数ですが、「御氏名、生年月日（or 卒業年）、卒業学科」を添えてお知らせください。

教職課程センター（京田辺）：kyosho01@dw.doshisha.ac.jp

編集後記

3月のある日、京田辺の正門を入った右手の森に、やわらかく香る黄色の花を抱いたミモザの木を見つけました。3月8日の「国際女性デー」は「ミモザの日」とも呼ばれているとのこと。ミモザは春を告げる花、日々の感謝を込めて女性に贈られる花なのですね。コロナをめぐる不安な日々が去り明るい季節が巡ってきますようにと、ミモザにお願いしてみました。